



代表取締役社長 滋賀 浩晃さん

西陣織は、何人もの職人さんが関わって成り立っている協業の世界です。当社でも、箔職人の繊細な手仕事をお得意様に見学・体験してもらったり、ものづくりの向こう側にあるバックストーリーを掘り起こして、西陣織の付加価値を発信していこうと思っています。手織は確かに手間ひまがかかる仕事ですが、私たちが実直に続けていく

ことによって、京都にまだこんな技術が残っているんだ...ということも多くの人に知ってもらいたいですね。職人さんが活躍できる場を増やしていくことが使命だと考えています。今後は、お得意様だけでなく、観光客やインバウンドのお客様にも足を運んでいただける仕組みを提供して、インターネットやSNSでは分からない地域の魅力を伝えられたらと思っています。



西陣織が
紡ぎ出す
彩りあふれる
心遣い

こころを込めて
我が社のおもてなし

洛陽織物株式会社

代表者／ 滋賀 浩晃

住 所／ 京都市上京区寺之内通千本東入二丁目新猪熊東町347

T E L／ 075-341-5331

U R L／ <http://www.rakuyou.com/>

ぎったんばったん…。軒先から漏れ聞こえる清々しい織機おりはたの音。西陣の地に店を構えて120年余り、洛陽織物では今も伝統的な袋帯や御召きものを作り続けています。

「受け継がれてきた織物文化を後世に伝えたい」と社長の滋賀さん。機械織が主流の時代に、工場に5台の手織機を再興し、若い職人を迎え入れるなど、失われつつある技術をはぐくみ承継する取り組みを続けてきました。なかでも、金銀箔を押した和紙を細く糸状にし、一本一本手で引いて緯糸とこいに織り込んだ引箔の帯は、独特の奥行感と温もりのある表情が魅力で、手仕事が生み出す価値にあらためて注目が集まっています。

最近では、江戸時代末期に建てられた京町家の工場をお得意様に公開・見学してもらうなど、これまで培ってきたバックグラウンドを生かしたおもてなしにも力を注いでいます。吹き抜けの高い天井、まっすぐ奥まで続く通り庭、趣のあるおくどさん、水琴窟の音色が響く美しい庭…。西陣織が紡ぎ出す伝統だけでなく、暖簾の先にある職住が近在する京都の息づかいを身近に感じてもらうことで、「地域の魅力を再認識するきっかけづくりになれば」と滋賀さんは笑みをこぼします。

西陣のまちをふらり歩けば、そここに懐かしい情景があふれています。目を凝らし耳を澄ませて、自分だけのとおきおきの京都を見つけてみませんか？